

学校だより

小川中学校

No. 29

平成28年2月8日

文責：校長 佐藤正則

無遅刻連続日数200日に！



150日を達成後、次の目標となっていた200日に、2月2日到達しました。この日は、県立高校I期選抜試験1日目ということもあり、達成集会は開きませんでした。

現在、無遅刻が当たり前前の雰囲気となっており、記録を伸ばし続けていますが、改めて考えると、すごいことをやり続けているのです。次の焦点は、「1年間無遅刻を通せるか」です。

県立I期で 27人内定！

県内10校に37人が挑んだ県立高校I期選抜試験の内定が5日にあり、27人が内定しました。

平均競争率1.9倍の狭き門でしたが、7割を超える内定率ですので、とてもよく頑張ったと思います。

これで進路が確定したのは、県立高校27人、私立高校2人、福島高专3人です。17人が県立II期選抜に挑みます。

II期は3月8、9日に行われます。

高校は期待しています

昨年も書きましたが、5日の発表はあくまでも内定で、正式には3月14日の合格発表です。しかし、一足早く進路が確定したことには間違いありません。

問題は、これから高校入学までの過ごし方です。期待して内定を出した高校側の期待を決して裏切らない生活、努力を続けて入学式を迎えてほしいのです。

学校では、I期合格者がII期合格者に成績で劣ったり、スポーツ推薦だった生徒が、入学時に体力や技術がガタ落ちしていたりなど無いように、自分に厳しく生活するよう指導しています。

ご家庭でもよろしくお願いします。



目標に届かず、市新人駅伝競走大会 女子21位、男子16位

2月6日(土)に市の新人駅伝競走大会が行われました。本校特設駅伝部は、10位内を目標に全力を尽くしましたが、男女とも目標を達成できず、男子16位、女子21位でした。その中でも、主将の佐藤 翔君が男子全体の6位の成績で区間賞を取り、気を吐きました。

大会には朝早くから、多くの保護者の皆さんが応援に駆けつけてくださいました。ありがとうございました。

なお、区間賞を取った佐藤君は、市の長距離強化選手に指定されました。



生徒会役員選挙

来年度の生徒会役員を選ぶ選挙が15日に行われます。

先週、立候補の届け出が締め切られ、8日から選挙活動が始まりました。

今回は、副会長女子でのみ選挙となります。



目標は高く、
練習は厳しく・楽しく!

浜っ子新聞で学校紹介

今年度、吹奏楽部と美術部で2回、本校を取り上げていただきましたが、最後の締めくくりとして、2月号では小川中学校の学校紹介が予定されています。



日本人の知的好奇心は20歳で老いている?! スウェーデン人の65歳と同じレベル???

PISA型学力と呼ばれるOECDの国際学力調査で、日本の子どもたちの学力が問題になって20年近くが過ぎます。この間、国を挙げて、学力を高めるため、少人数学級の導入、教える内容と授業時数を増やし、指導法の改善などを進めてきた結果、回復してきたことはご存じのことと思います。

このOECDでは、「大人の学力」調査も実施しています。国際成人力調査と言いますが、各国の16~65歳を対象に、読解力、数的思考力、ITを活用した問題解決能力及び生活意識を調査しています。



学力はダントツの世界一、しかし...



2012年の調査では日本の平均得点は軒並みトップとなり、「大人の学力世界一」として、マスコミなどで報道されました。一見するととても喜ばしいのですが、意識調査からは深刻な問題が見えます。

それは「新しいことを学ぶのが好き」という「知的的好奇心」に関するです。この数値が、調査国の中では韓国に次いで下から2番目で、しかも日韓2カ国は、他の諸国に比べ、飛び抜けて低い状態となっているのです。その結果の一つが、上の「日本人の20歳の知的的好奇心はスウェーデン人の65歳と同レベル」だということなのです。

現在は知識基盤社会に入ったと言われていています。次々に新しいものや事が出てくるため、学校で学んだ基礎知識を基に、社会に出てからも新しいことを常に学び続けなければ、社会の進歩や発展について行けなくなるのです。ですから「知的的好奇心が低い」ということは、日本の将来を考えると、かなり怖いことです。学校教育はこれを真剣に受け止めていかなければならないと思っています。